ポローニア
paulownia

筑波大学附属学校教育局
広報誌 ポローニア

令和６年 10月31日 発行
通巻第61号

61

【巻頭言】 附属学校教育局次長 雷坂浩之「「特別支援教育連携推進グループ」を紹介します」

2 附属の高校生が大学の授業「平和と法」を聴講――梶山正明
3 三浦YMCAでの宿泊学習――福島陽菜
3 「違いを編む『知性』」の研究――盛山隆雄
4 生徒会活動――藤本裕美子
4 ３年生 修学旅行「ハモる♪」――四之宮暢彦
5 駒場の探究 ー生徒の探究活動を支える図書メディア委員会ー――加藤志保
5 令和６年度筑波大学公開講座（現職教員講座）開催（7月17～19日）――濵田 淳
5 本校中学部宿泊@高尾の森わくわくビレッジ――小泉清華
6 ５年ぶりのコミュニケーションキャンプ――髙野博明
6 「えがおEサポート（障害者雇用）」の取り組み――大宮弘恵
7 幼稚部行事「みんなのなつまつり」――髙橋里子
7 夏の海外派遣プログラム――物井真一
8 共生シンポジウム

筑波大学
University of Tsukuba

「春日大社にて」太田琥太朗
附属聴覚特別支援学校 高等部専攻科造形芸術科1年

「夏色」小澤琉惺
附属聴覚特別支援学校 高等部専攻科造形芸術科1年

巻頭言

「特別支援教育連携推進グループ」を紹介します

附属学校教育局次長 雷坂浩之

RAISAKA HIROYUKI

附属学校教育局に「特別支援教育連携推進グループ」という組織があることをご存知でしょうか。この組織は、視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・知的障害・自閉症を専門とする5校の附属特別支援学校から派遣された教員と本学人間系障害科学域の研究者が連携して運営しています。平成16年7月に設置された「特別支援教育研究センター」の後継組織です。

本グループは、全国各地から現職教員を招いての研修や特別支援学校教員免許の取得向上に貢献する講座、特別支援教育に関する各種セミナーの開催、各種障害教育の教材や指導法等の開発とそのデータベースの整備や公開、附属特別支援学校ごとの教育実践の成果をまとめた書籍の発刊などに取り組んでいます。また、近年においては、通常学校に在籍する発達障害を有する児童生徒の指導の在り方や合理的配慮の普及に向けた活動も開始しました。

これからのインクルーシブ社会の発展に必要な教育的な課題の解決に向けた研究分野においても本グループの今後の活躍に注目しているところです。ご興味・ご関心のある方は下記WEBサイトをご覧下さい。

https://www.gakko.otsuka.tsukuba.ac.jp/snerc/

テーマ別発表のようす

附属の高校生が大学の授業「平和と法」を聴講

附属学校教育局教育長補佐
梶山正明

附属学校教育局では、文部科学省の委託事業として「大学の学びの先取り履修システム」の構築を進めており、令和7年度から「高大接続科目等履修生制度」をスタートさせる計画です。本事業は、大学の中期計画「新たな高大接続モデルの作成」の一環でもあります。

この夏、「先取り履修」の試行的取り組みとして、秋山肇先生（人文社会系）による大学の授業「平和と法」を、附属の高等学校3校および桐が丘特別支援学校高等部、東京学芸大学附属中等教育学校、お茶の水女子大学附属高等学校の生徒（計11名）が聴講しました。

高校生は、オンライン授業を1日受けた後、筑波キャンパスで3日間の集中授業に臨みました。集中授業では、テーマ別に作成した大学生・院生と高校生からなる班から、各テーマを平和と法に関連付けて探究した結果や各個人の意見、ディスカッションクエスチョン（DQ）が発表されました。次に、発表者への質疑応答、席が近い者による小グループでのDQについての議論があり、議論を踏まえた意見発表や秋山先生から新たな観点や補足情報を含むコメントが加えられる形で進行しました。各班のテーマは、国際関係、ジェンダー、障害、芸術等多岐にわたり、高校生を含む参加者にとって、これまで触れあうことがなかった多様な人々の多様な考えを知り、互いに理解を深めあう貴重な機会となりました。

ディスカッション（中央が秋山先生）

三浦YMCAでの宿泊学習

附属久里浜特別支援学校 教諭 **福島陽菜**

小学部5年生は6月20日、三浦半島に位置する三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジへ行きました。シーカヤックや花火、野外炊飯を体験する1泊2日の宿泊学習で、5年生にとって初めての校外での宿泊学習でした。学校を出発し、バスと電車を乗り継いで三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジに向かいました。1日目にはシーカヤックが予定されていました。事前学習では学校のプールにシーカヤックを浮かべて練習もしました。ライフジャケットの着方、シーカヤックの乗り方や降り方を学び、楽しく安全にシーカヤックに乗ることができるようになりました。しかし、強風のためにシーカヤックは中止となり、代わりに磯遊びをすることになりました。波に向かって勢いよく走る子や波打ち際に座ってのんびりする子、海に浮かぶりんごを持ち上げ「見て見て!」と教師に伝える子など、それぞれが自分のやり方で、海を楽しんでいました。今回は残念ながらシーカヤックはできませんでしたが、秋の校外学習で再チャレンジをすることになりました。

シーカヤックの事前学習

2日目は昼食のカレーを作りました。事前学習でカレー作りをしたので、野外炊飯場でも落ち着いて野菜を小さく切ったり、手順に沿って調理をしたりすることができました。「いただきます。」の掛け声で、カレーライスを黙々と食べ始めました。全員がカレーライスのお代わりをし、大きな鍋にたっぷりあったカレーはいつの間にかなくなっていました。事前学習での学びを生かして新しい経験にも楽しく取り組めた2日間になりました。

野外炊飯

磯遊び

「違いを編む『知性』」の研究

附属小学校 教諭 **盛山隆雄**

現代は、地球規模の多様な問題を抱えている。グローバル社会において、そういった諸問題に向き合うとき、異質なものを理解する力が重要になる。そして、解決に向けては、思いだけでなく、人間ならではの「知性」が不可欠である。また、今日、世界的なイノベーションによる進化において、特定の枠にはまったやり方ではなく、多様性を前提とした新しい価値や発想が求められている。多様性という「違い」をもとに、共に幸せになることを目指した新たな「違い」を生み出す「知性」が求められている。

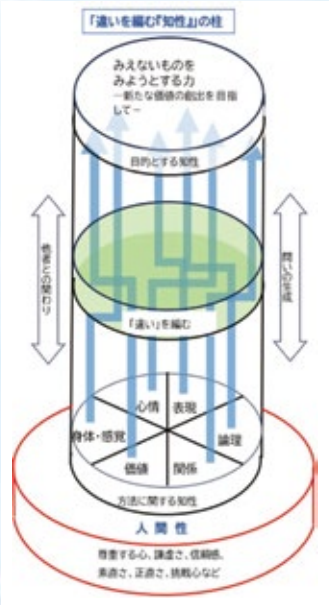
上記のように考え、「違いを編む『知性』」という研究テーマを設定した。

◆第1年次の研究　―「違いを編む『知性』とは何か―

令和6年6月8日(土)・9日(日)の研究発表会において、1年目の研究発表を行うことができた。「違いを編む『知性』」の捉え方について、次のように整理して発表した。

> 「身体・感覚」、「心情」、「関係」、「論理」、「表現」、「価値」といった視点から「違い」を捉えたり、分析したりすることで「みえないものをみようとする力」のことである。この力は、人間性に裏打ちされ、人間性と相互依存の関係にある。

この「違いを編む『知性』」をイメージするための構造図が下の図である。6つの視点から「違い」に働きかける構造を示し、編んだ先に目的とする知性である「みえないものをみようとする力」がある。



【「違いを編む『知性』」の構造図】

意見交換

生徒会活動

附属聴覚特別支援学校 高等部 教諭
藤本裕美子

令和6年6月、臨時生徒総会が開かれました。本校高等部では、毎年4月に定例生徒総会を開き、前年度の活動報告や今年度の活動計画と予算案の協議を行っていますが、今年度は臨時に総会を開いて「高等部普通科生徒会会則」や「生徒会選挙規則」「校風美化に関するきまり」等の改定案を協議しました。

前年度12月に新役員会が発足したときに会長から申し出があり、『生徒会便覧』(生徒会に関するきまり)の見直し作業がスタートしました。役員一人一人が疑問に感じていることや改定するべきことをまとめ、顧問に質問しながら総会で検討するべき事項を整理しました。また、自分たちが1年生のときには、入学してすぐに開かれた定例生徒総会で選挙に関する改定案が出され、わからないまま承認してしまったという反省を活かし、後輩にわかるように提案するためにどうすれば良いかを考えて、総会の進め方を工夫してくれました。

当日は期末テスト最終日の午後に実施されたということもあり、疲れた表情を見せていた生徒も少なくなかったのですが、役員の提案を受けて真剣に意見を出す先輩たちの姿に触発され、1年生も少しずつ質問や意見を出せるようになり、活発な議論が行われました。否決された提案事項もありましたが、全員が真剣に考えて出した結論に提案者も満足そうな表情を見せてくれました。

9月には生徒会選挙が行われ、次期の役員が選出されました。先輩からのバトンを受け継いで活躍してほしいと願っています。

挙手による採決

質疑応答

3年生 修学旅行「ハモる♪」

附属中学校 教諭 四之宮暢彦

本校の修学旅行は、「文学」「大井川」「自然」「ESD」「温故知新」の5コースに分かれ、富士山周辺で活動を行いました。

文学コースでは、「伊豆と沼津の文学を訪ねて」をテーマに、文人ゆかりの地や旅館、文学館を訪問しました。作品に描かれた風景や気候を感じ、事前に学習した作品への理解を深め、文学三昧の旅を満喫しました。

お茶農園から絶景を堪能

大井川コースでは、「大井川周辺の生活と産業」をテーマに、お茶農家さんを訪問、大井川鐵道への乗車、静岡の様々な地形の見学などを体験しました。旅の面白さ、人との出会いの素晴らしさに感激しました。

青木ヶ原樹海で植物の遷移を学習

自然コースでは、「富士山及びその周辺を訪ねて、自然の美しさ・偉大さを実感し考える」をテーマに富士山麓を探索し、宝永火口トレッキング等の体験活動や山梨県庁の方々と富士山登山鉄道構想について議論をする等の学習活動を行いました。

ESDコースでは、「自然と人間社会の共生について考える」をテーマに、南アルプスユネスコパーク周辺で活動を行いました。水工場見学や入笠湿原の植生保護活動体験、早川町茂倉集落への訪問など自然との共生を考える学習を行いました。

温故知新コースでは、「古代から現代に至る人々の営みに触れて未来について考える」をテーマに、縄文時代の黒曜石の採掘や江戸時代の宿場町や現代的なバルブ工場の訪問など、未来を考えるヒントになる学習を行いました。安曇野では美術館見学やスケッチを行い、アルプスの素晴らしい景色に感動しました。

安曇野のちひろ公園でスケッチ

どのコースも一生の想い出となる旅になりました。

駒場の探究 ー生徒の探究活動を支える図書メディア委員会ー

附属駒場中・高等学校 司書 加藤志保

本校の図書メディア委員会は、日々、生徒の探究活動を支える学校図書館づくりに貢献しています。この夏、委員会では次のような活動を行いました。

蔵書点検と選書ツアー：図書館内の全書架の約23,000冊を点検し、図書館にどのような資料が存在し、自分たちの学習に資するのかを確認しました。同時に、新宿紀伊國屋書店に出向き、新たに図書館に加えるべき資料を探索。現状で資料が不足している分野を中心に100冊ほどを厳選しました。

スタンプラリー：図書館を一般に公開する「東京・学校図書館スタンプラリー」に参加しました。近隣校の図書委員会との交流の成果として、駒場地区4校の合同企画の「4校共通しおり」と「特典ストラップ」を作成。当日は在庫が無くなるほどの人出となりました。図書メディア委員会の活動にご興味のある方は、来年のスタンプラリーに是非お越しください。

蔵書点検のようす

紀伊国屋書店での選書ツアー

令和6年度 筑波大学公開講座（現職教員講座）開催（7月17~19日）

理療科教員養成施設 講師 濵田 淳

「理療教育に活用する研究の知見と教育技術」と題して開催されました。本講座は、私が参画する以前から毎年実施されていた「自立教科等担当教員（理療）講習会」が基になっています。目的は「理療科教員の資質向上」であるため、現職者ニーズにお応えするテーマを設定し企画していましたが、2009年の教員免許更新制度実施により兼ねて実施することになり、講師選定や内容の条件が厳しくなり、事後評価をしなければならず、制度の重みが強くのしかかりました。公平性を保ちつつ、要求水準も高い。感染、災害等も想定しておかねばなりません。事後アンケート結果に翻弄され、再度の担当に向けて活動し始めるのですが、苦労の割に評価されませんでした。2022年の更新制度の発展的解消とともに途切れていましたが、現職教員からの要望により、大学公開講座として昨年度から再開されました。今年度の内容は専門各領域のここ10年の進歩として企画しましたが、参加人数は振るわず30人弱でした。困難な状況にもめげず、運営したのですが…。医学・教育領域以外にも、認知心理学、疑似科学、イップス、コミュニケーション等お伝えしたいものがありましたが、今回で私の役目は最後となりました。

解剖学教育史を概観、今後の解剖学教育に想いを馳せる（講師は順天堂大学 坂井建雄教授）

本校中学部宿泊@高尾の森わくわくビレッジ

附属桐が丘特別支援学校 中学部 教諭 小泉清華

中学部宿泊生徒企画 ボッチャ

7月に高尾の森わくわくビレッジで1泊2日の宿泊をしました。道中、バスレク班によるレクを楽しみました。

初日は2つの活動を行いました。染め物体験では、完成像を想像しながら彩り豊かに無地のTシャツを染め上げました。館内オリエンテーリングの謎解きでは、学年を超えて知恵を出し、時間内に答えに辿り着こうと頑張りました。あと一歩、というところで終了となり「あと10分あれば!」という声も。

翌日は生徒企画レクが大盛況でした。前半はスラロームリレーと爆弾ゲーム、後半はボッチャとジェスチャーゲームをしました。

個人・班目標を達成するため、各々が見通しをもち試行錯誤を行いました。また、先輩・後輩でじっくり交流を深め、互いに協力しあった2日間でした。

中学部宿泊集合写真

5年ぶりのコミュニケーションキャンプ

附属坂戸高等学校 教諭 **髙野博明**

オリエンテーリング

本校では、新しく知り合った仲間との友情を培うとともに、総合学科における学習姿勢について、自然や体験を通して学ぶといったことを目的として、入学式の翌日からコミュニケーションキャンプ（コミキャン）を行ってきました。新型コロナウイルス流行の影響で、令和2年度よりコミキャンは中止となっていましたが、規制が緩和され、今年度は5年ぶりにコミキャンを実施することができました。山梨県清里高原にて、令和6年4月11日より2泊3日の日程で実施し、新入生158名が参加しました。入学式の翌々日からのスタートということで、行きのバスでは緊張感が漂っており、生徒どうしの会話はまだぎこちない様子でした。しかし、アイスブレイクやオリエンテーリング、飯盒炊爨といったアクティビティを通して、生徒たちは次第に打ち解け合い、帰りのバスは非常ににぎやかで明るい雰囲気となっていました。同じクラスの生徒どうしのかかわりが深まったことはもちろん、活動班では他クラスの生徒とも協働したため、学校に戻ってきた今でも、他クラスの生徒との交流が活発で、横のつながりを強めることもできました。出発する前は多くの生徒は不安を抱いていたようですが、帰ってきた生徒の反応としては、「すぐにクラスメイトと打ち解けた」「コミキャンってすごい!」といった肯定的なものが多く、非常に有意義な2泊3日を過ごすことができました。

活動班の目標

飯盒炊爨

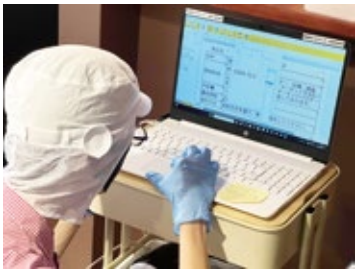
「えがおEサポート（障害者雇用）」の取り組み

附属大塚特別支援学校 主幹教諭
えがおカフェプロジェクトリーダー **大宮弘恵**

令和6年4月、本校に念願のカフェ型教育施設「えがおカフェ」が完成しました。様々な活用方法の一つに『知的障害のある方のキャリアサポートの場にしたい』というプランがありました。本校高等部の生徒の多くは高等部卒業と同時に社会に巣立っていきます。知識や技能等をゆっくり習得していく知的障害のある生徒たちにとって、またその保護者にとって、18歳で大人の仲間入りをすることは、心身ともに大きな負担があるだろうと常々感じていました。通い慣れた学校で、地域の方々にも囲まれながら、カフェを運営することを通して社会に出るための知識・技能を身につけることができたら、彼らは自信を持って社会の中で生きていけるようになるのではないかと考えています。

現在、「えがおカフェ」では、6月より2名の本校卒業生が筑波大学により障害者雇用され、スタッフとして働いています。この新しい障害者雇用の取り組みを「えがおEサポート」と名付けました。接客サービス、清掃はもちろんのこと、「えがおカフェ」では製菓作業も行います。道具の名前や使い方を覚えること、それらを使いこなし美味しいお菓子を完成させるために必要な技能を身につけること、成分表編集のためのパソコン操作など、カフェの業務は多岐に渡ります。これまでの期間で、少しずつではありますが、着実に業務内容を習得しており、この環境に感謝しています。このような取り組みが、二人の雇用をきっかけに、より多くの知的障害のある方のチャンスとなるよう願っています。

クッキーの封入作業


PCを使った成分表の編集作業

アプローチの落ち葉清掃

幼稚部行事「みんなのなつまつり」

附属視覚特別支援学校 幼稚部主事
高橋里子

令和6年7月20日（土）に行事「みんなのなつまつり」を開催しました。本行事は今年で2年目を迎えます。令和5年5月、新型コロナウイルス感染症が5類へと移行しました。それまでの間、子ども達は集団活動が制限され、相互に支え合う関係となり得る保護者同士のつながりは希薄になってしまいました。幼稚部では、子ども達に友達と一緒に活動する楽しさを味わってほしい、また、保護者同士がつながる機会を作りたいと考え、本行事を立ち上げました。

今年度は8家族29名の方が参加しました。当日は甚平や浴衣を着て参加する子もいて、お祭り気分は最高潮。「何で遊ぼう！」とドキドキワクワクな気持ちが表情からも伝わってきます。活動は二部構成で進めました。一つ目は「お祭り屋台」、二つ目は「お祭りパラバルーン」の活動です。屋台では、的当てやボールプールで遊ぶ「ボールゲーム屋さん」、家族と一緒に作る「かき氷屋さん」、シールで飾った魚を泳がせて遊ぶ「ぷかぷかお魚屋さん」、ウォーターベッドや風船マット、フェルトや卵パック等様々な感触の違いを楽しむ「お楽しみ屋さん」の4つが展開され、子ども達の笑顔と歓声があふれました。活動の最後を締めくくる「お祭りパラバルーン」では、涼やかでダイナミックな風と音、そしてカラフルな色に子ども達は大きく両手を伸ばして大喜びでした。

ぷかぷかお魚屋さん

活動中は、保護者同士の話に花が咲き、きょうだい児も汗をかきつつ笑顔で遊ぶ姿が見られました。本行事が子ども達、そしてご家族の方の夏の一つの思い出となれば幸いです。

ウォーターベッドの冷たさ、感触を楽しむ

参加者全員でパラバルーン

夏の海外派遣プログラム

附属高校 教諭 物井真一

シンガポール・ホワチョン高校での討論会

本校では、今夏、コロナ渦以前のように、夏季休業中に以下の3つの海外派遣プログラムを行うことができた。

【APYLS】シンガポールのホワチョン高校が主催するAsia Pacific Young Leaders Summit（APYLS）が、7月14日～19日の6日間の日程で開催され、本校2年生3名が麻布高校生とともに日本代表として参加した。今年度は10か国、約100名の高校生が参加し、様々な社会問題について発表と議論を行った。また、文化交流も行い互いに親睦を深めた。冬にはオンラインにて同窓会も行われる予定である。

【HAS】韓国のハナ高校が主催するHana Academy Seoul International Symposium（HAS）が、7月22日～26日の5日間の日程で開催され、本校2年生3名が、他の日本の高校と共に参加した。アジアを中心とした国々から100名以上の高校生が参加した。各校生徒が事前に社会問題に関する論文を作成して参加者間で共有し、シンポジウムではその発表と議論を行った。ハナ高校の生徒が他校生徒のバディを務め、ホームステイも行い交流を深めた。

【UPEI】『赤毛のアン』でおなじみのカナダ・プリンスエドワード島の大学（University of Prince Edward Island）で、本校生向けの語学研修プログラムに8月10日～25日の16日間の日程（移動を含む）で、1・2年生、計16名の生徒が参加した。現地ではホームステイをしながら、午前は大学で語学研修を、午後は様々な活動を行い、『赤毛のアン』のミュージカル鑑賞やグリーンゲーブルズ博物館訪問も含まれた。研修最終日には、カナダの文化や社会に関する発表を一人一人が行った。

引き続き、様々な国際交流を通して一人でも多くの生徒にグローバル社会への意識を高めてもらいたい。

韓国・ハナ高校での発表後

カナダ・プリンスエドワード島大学研修

筑波大学附属学校教育局　IMAGINE THE FUTURE.

開催１０周年

共生シンポジウム

－共生社会を目指す「つくばふぞく」の集い－

筑波大学附属学校では、全 11 校の附属学校児童生徒が交流行事を行っています。
第１部では交流行事で感じたことや成果を自らの言葉で語るシンポジウムを行い、
第２部では社会で活躍する障害当事者の方を講師にお迎えし、共生社会を語る集いを行います。

令和６年 12 月 14 日 土　13:30～16:00

会　場　筑波大学東京キャンパス文京校舎 134 室（対面・オンライン ※要申込）
東京都文京区大塚 3-29-1

参加費　無料　申し込み URL　https://forms.gle/F4Midgo3XRDnP5TG8

開会　13:30～
【挨拶】筑波大学　永田恭介（ながた きょうすけ） 学長

第１部　13:35～

シンポジウム

【交流行事を通して】

10月13日開催交流行事参加の
附属学校児童生徒が語る
交流行事の体験

第２部　15:00～

講演

【人生、前向いてナンボ。】

講師　木戸俊介（きどしゅんすけ） 氏

NPO 法人須磨ユニバーサルビーチプロジェクト代表
Qolo アドバイザー・テストパイロット

1986 年神戸生まれ。
筑波大学を卒業後、（株）博報堂にて 8 年間勤務。
2015 年 4 月 4 日、交通事故による胸椎損傷から下半身が完全麻痺。
日本の病院を退院後にオーストラリアにてリハビリ留学。オーストラリアで出会ったユニバーサルビーチを地元神戸で実現するため、NPO 法人須磨ユニバーサルビーチプロジェクトを設立。
2020 年のコロナ禍でランチのデリバリーを中心とした飲食事業、キッチン HERO（ヒロ）を開業。さらには、2022 年にサッカースクール事業『アルコ神戸・フットボールスクール』を開設するなど、多方面の業界で活動している。　木戸俊介
公式サイト https://peraichi.com/landing_pages/view/shunsukekido

【後援】あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
【協力】Qolo 株式会社
ソニーマーケティング株式会社 / 一般社団法人 Arc & Beyond

ポスターデザイン
筑波大学附属聴覚特別支援学校
高等部専攻科
造形芸術科　小澤琉惺

●広報誌名「ポローニア」の由来

「ポローニア」とは、「桐」の属名であり、Paulowniaと綴る。本誌を「ポローニア」と名づけたのも、筑波大学の紋章に「五三の桐」が使われていることに拠る。しかし、ポローニアを付与した理由が他にも存在する。近代西洋医学を日本に伝えたシーボルトは、日本において、桐が瑞祥の象徴と見なされ、皇室をはじめ高貴な家柄の紋所として用いられていることを知り、Paulownia（後援者のオランダのパウロウナ公妃に因む）こそが植物の桐のイメージを表現していると考え、桐の学名（Paulownia imperialis）に定め、パウロウナ公妃に献呈した。今後いつまでも、多数の読者に愛され続けることを願い、ポローニアの故事来歴やエピソードに基づき、ポローニアと命名した。

ポローニア
paulownia
vol.61

発行日……令和6(2024)年 10月31日
発行者……附属学校教育局教育長 呑海沙織
発行所……筑波大学附属学校教育局 広報誌
広報戦略推進委員会
〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1　電話 03-3942-6800
デザイン……スピーチ・バルーン
印　刷……広研印刷　使用紙：U-Ltimax［日本製紙］